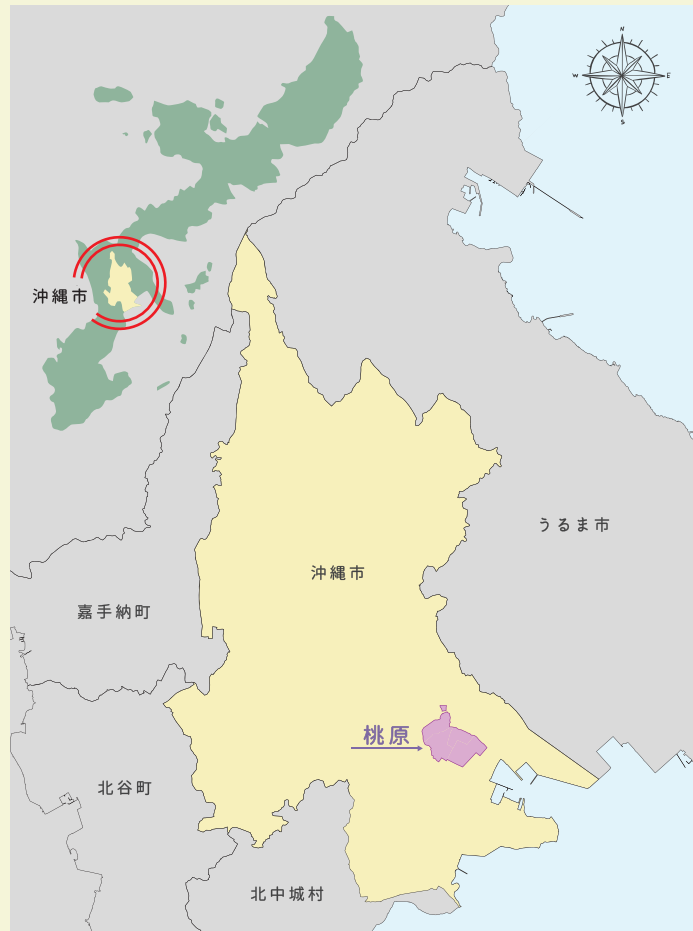
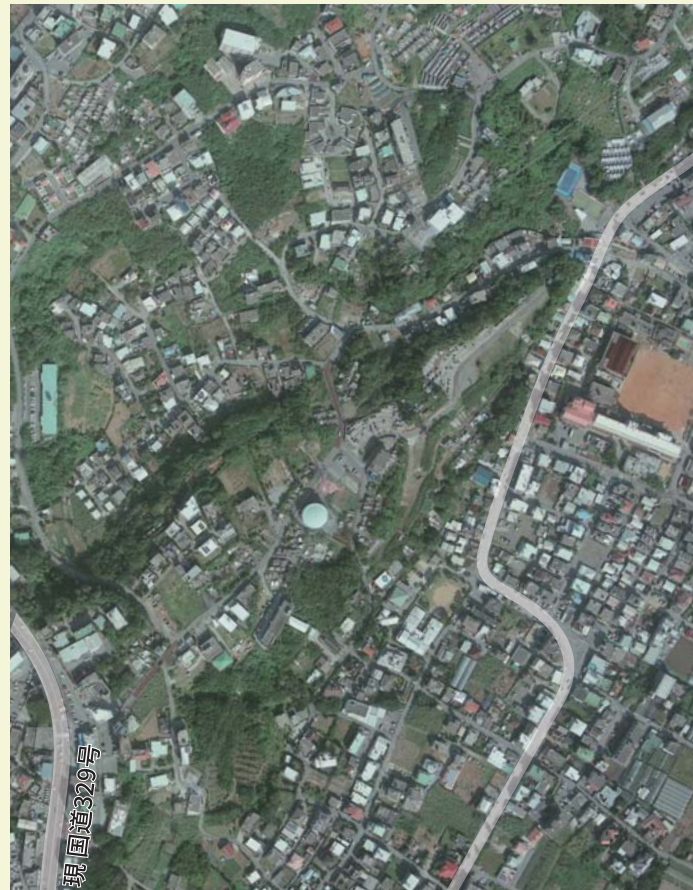


桃原の位置



2010年の桃原集落の様子



出典：国土地理院ウェブサイト

桃原地区



沖縄市文化財マップ

沖縄市文化財マップ 桃原地区 (東桃原自治会地区)

平成29年度発行
発行：沖縄市教育委員会 沖縄市立郷土博物館
〒904-0031
沖縄県沖縄市上地2-19-6 沖縄市文化センター3階
TEL：098-932-6882
FAX：098-933-6218

桃原集落について

桃原は方言でトーバルといいます。1713年の歴史資料『琉球国由来記』に桃原の拝所として「桃原之殿」が記載されています。集落の発祥は大里の野原と呼ばれる場所(現在の国道329号と県道20号線に挟まれたあたり)にありました。しかし、当時集落のあった場所は地すべりがあり、危険なので移住させなければならないと琉球王府に言われ、現在の国頭村辺土名辺りへ移住させられそうになった時、大里の人達の協力で現在の場所へ移住したと伝承されています。

沖縄戦以前は田園地帯が広がる農村集落でした。

沖縄戦後、米軍泡瀬飛行場建設計画のため隣接する大里とともに強制移住させられましたが、計画が中止され桃原に戻りました。1970年代初め頃までは田園地帯の面影が残っていましたが、現在は開発によって宅地化が進んでいます。

1974(昭和49)年の美里村とコザ市の合併により、コザ市の桃原(現在の南桃原)との兼ね合いが出てきたため、同年に「東桃原」と自治会名が改められました。

1945年の桃原集落の様子



出典：沖縄県公文書館所蔵『米軍撮影空中写真 ON24146 054-1』より

ウビナディ

ウビナディ.....それは、沖縄諸島で行われているおまじない。集落で大切にされている井戸などからくんだ水を器に入れ中指を浸し、額を3回撫でます。厄除けや健康祈願の効果があるといえます。

あなたもお正月におばあちゃんなどから額に水をつけられた経験はありませんか？そう、それがウビナディ。お正月以外でもウビナディが行われることがありました。

【ケース1】赤ちゃんが生まれたとき！

赤ちゃんが生まれると、集落で大切にされている井戸などからくんだ水で、年長者の女性が赤ちゃんにウビナディを行いました。赤ちゃんの生命力を上げるためや、産後の清めを意味すると言われています。

【ケース2】結婚式！

現代と違いかつては、自宅で結婚式を行っていました。式の最初に夫婦固めの儀礼として、付き添いの女性が花婿と花嫁の額にウビナディを行いました。

上記の2つのケースはチャンスがあれば見ることができるかもしれませんが、また、普段でも怖い場所などを通ったりしたときなどに、厄除けとしてウビナディをする事があります。水がない時は、ツバでも代用できますのでぜひお試しを！

東桃原自治会の年中行事

下記の表は、東桃原自治会で行われている行事です。
★マークがついている行事は、戦前から行われている行事です。

1月	親子もちつき会
1月後半	新年会
★ 旧暦5月15日	五月ウマチー
6月中旬	共同清掃作業
7月	自治会ピクニック
8月	親子綱引き大会
8月後半	自治会納涼まつり
★ 旧暦9月9日	菊酒
10月中旬～下旬	敬老会



1 ウガンジュ

アシビナー敷地内にある祠で、桃原の村神とヒヌカン(火の神)が祀られています。現在でも、地域の行事として旧暦5月15日の五月ウマチー(農作の祈願)や旧暦9月9日の菊酒(健康祈願)で捧まれています。桃原で一番大事にされている場所です。

2 アシビナー

敷地内に、ヒヌカン(火の神)と村神が祀られたウガンジュが存在しています。現在でも、地域の行事として旧暦5月15日の五月ウマチー(農作の祈願)や旧暦9月9日の菊酒(健康祈願)で捧まれており、ウガンジュでの捧み後には集落の人たちが会食を行っています。

3 カーミンスクー(ムラガー)

別名ムラガーとも呼ばれており、地域の生活用水として利用されていました。また、子どもが生まれた時に用いる水や元旦の若水(元旦に初めてくむ水)などをくむ場所として利用されていました。カーミンスクーという名前は、この井戸がカーミ(甕)の底の形に似ていることに由来していると伝えられています。

4 ソーリーガー

桃原で人が亡くなった際に死者を清めるために使う水をくんだ場所と言われています。また、洗骨を行う際は、ここから水をくみ洗骨場所で洗骨を行い、使用した道具はソーリーガーで洗われたと言われています。かつて、旧暦1月のハチウガミで捧まれ、旧暦6月25日には井戸さらいをしたと言われています。

井戸の側にある階段からすぐ見えるニービ(砂岩)は、現在のように整備される以前に井戸の周りに設置されていたそうです。

5 ユカッチュガー

首里から来た身分の高い人(士族)だけしか、水をくんではいけないとされていました。現在、道路より1mほど下がった畑内にあります。

